

# 大学入学共通テストの探求 ⑤

## 地理A(第1日程) 第3・4問の分析を通して

首藤 慧 真

### 一 第3問

「南アジア」に関する設問である。自然環境や農業、食生活や人口増加率など様々な分野から出題され、具体的な資料の読み取りから対象地域の特徴を考察する問いが多くみられた。問4は家禽の肉と牛肉で供給量変化の要因を考察する必要があり、難易度は高いがインドにおける食生活変化の実情が垣間見える興味深い資料である。配点20点。

ピックアップ1題 問6 18

インドの州別人口増加率、都市人口率、都市の失業率の各資料から、地域間経済格差の特徴を読み取り、背景を考察する問いである。①は知識の活用、②・③は資料の読み取りと考察として標準的だが、④はX州や全国とY州を比較した正誤を問う形にするなど、改善の余地が残る。

### 二 第4問

「世界の結びつきと地球的課題」から6題が出題された。東・東南アジアにおけるコンテナ貨物取扱量上位港の位置(問1)、日本に在留するブラジル人とベトナム人総数の推移と各都道府県別割合(問3)、各国の1人当たり1次エネルギー消費量と都市人口率の推移(問4)など時代の変遷に伴う特徴の変化について、学習事項を活用してつかませる問いが多くみられた。授業においてもこうした点を意識して取り組みたい。配点20点。

ピックアップ1題 問5 23

砂漠化のメカニズムとその影響について、模式図を空欄補充する問いである。近年地理教育で注目されるシステム思考の発想が窺え、模式図の矢印がループしていることも特徴である。空欄の前後を見るだけで解答が選べてしまう点は改善の余地があり、解く過程で図全体を読み、一層システム思考を意識する設問となることを期待したい。

待したい。

### 三 紙上ディスカッション

以下、自由参加形式で意見交換したものを要約して報告する。

蒼下(下関南高校) 第3問は探究的な構成をとり、課題設定、資料の取捨選択、考察・構想の流れで出題されているが、問5は常識的な知識で解答でき、問6は安易な意思決定に繋がりがかねず、地理らしい出題に改善された。第4問は南アジア地誌において、基本的内容を基に解答する安定的な問題が多い。宅島(広島大・院) 第4問問2では、個別的な統計データの暗記ではなく、データの傾向性をとらえる力が求められる。人々の移動には、地理的な近接性や歴史的背景が大きく影響を与えることから、キトクの近接性、カとキの歴史的な関係性といった視点からの考察が可能である。

要因を考察する学習の有効性を示唆している。井上(川崎高校) 第4問問3は国籍による移民数と居住地の違いを問う設問。ブラジルは古くから往来が盛んな国であり、親戚が集まって暮らす傾向がある。ベトナムは技能実習生制度により、数が急増しており、全国に分散する傾向にある。国籍による来日目的の差異や、各国が移民を送り出す背景まで授業で触れておくことが求められよう。山口(上五島高校) 第4問問4では、都市化とエネルギー消費量を結び付けて出題している。地理総合においても、様々な地球的課題が相互に結びついていることを理解させることが求められている。授業においても、資料をもとに地球的課題間の関係性について考察していきたい。

中村(鳥取西高校) 第3問問2は穀物生産量の変化要因を資料から読み取る設問。絶対量を指数化した数値と割合を同時に読み取る力を問う。一方、高収量地域の要因は、品種の違いを推察させている。判断は単純だが、授業において緑の革命等の題材について、多様な

後藤(佐倉高校) 第3問は南アジアについて、比較的平易な知識を求めたり図表を読み取らせ思考させたりする、オーソドックスな問題であった。問5は、平易でこそあるが、気候や歴史的背景、農業の知識をもとに衣服を思考させた、地理総合に準ずるようなものであった。(県立広島井口高等学校)